

The logo consists of three stylized vertical bars forming a 'C' shape, followed by a vertical bar, and then a horizontal bar extending to the right.

PART 5

国際社会経済研究所（NEC）
グループ）主幹研究員



遊間和子

ヘルスケアデータの活用は、大きく3レベルに分類できる。第1段階は、医療・介護機関内における専門家のためのデータ利用であるEHR、第2段階は、機関と機関の間での電子的な情報交換のHIE、第3段階は、患者と専門家の間での電子的な情報交換のPHRである。日本におけるヘルスケアデータの活用は、一部の先進的な機関、地域にとどまつており、保健医療福祉情報システム（JAHIS）の2011年医療情報システム導入状況調査でも、電子カルテ導入率30・2%という現状がある。

進むオランダ

欧洲各国ではヘルスケアデータの活用が急速に進んでいるが、その一つにオランダがある。欧洲におけるヘルスケア・ランキングでトップに君臨するオラ



別化したPHRを開発し、住民・患者は複数の中から自分好みのPHRを選択して利用することになる。

ベンチャーア育成

オランダは、PHRに連携できる健康サービスを提供するベンチャー企業育成にも力を入れている。ヘルスイン社は、健康的な行動をすると、健康に良い商品・サービスに交換可能なデジタルコインをためることができるとスマホアプリを提供している。例えば、自転車通勤を推奨する企業では、従業員は「Ring」という歩行距離を全世界測位システム(GPS)計測する自転車アプリと連動してヘルスコインを得る。さらに、日本がこれから進めるヘルスケアデータの活用においても、セルフケア社のPHR上で自分自身の健

R上で自分自身の健康データと合わせて管理もできる。企業に加え、介護施設・病院などストレスの高い組織や貧困層・高齢者・子供の健康支援を進めたい自治体で導入されていく。スマホを所有していない子供向けには、プラスチックのコインなどを使って興味を高めながら、データ管理するなどゲームификаーションによる参加意識の向上にも努めている。

オランダでは、企業の独自性を保ちながらも、国全体で相互運用できるPHRを目指しており、日本がこれから進めるヘルスケアデータの活用においても、セルフケア社のPHR上で自分自身の健